

# 庁舎等の在り方を考える⑥



## 庁舎等整備検討委員会 —市長への答申報告—

お問い合わせ 政策推進部 政策推進課（米原庁舎）  
☎52-6626 ☎52-5195



### 検討委員会からの答申の主な内容

#### 1 庁舎体制の在り方について

米原庁舎、山東庁舎、伊吹庁舎および近江庁舎による分庁舎方式から1か所に統合、整備する総合庁舎方式が最も望ましい。

#### 2 支所等の市民サービス機能の

##### 在り方について

- ・各地域に窓口および地域自治振興機能を有する支所等の機能は、現状を維持する。
- ・行政サービスセンターは、利用状況、他の手段（コンビニ交付など）の活用を含めて、その在り方を今後検討する必要がある。
- ・支所等の機能配置は、市民サービスの低下を招くことがないよう十分配慮するとともに、既存庁舎の在り方を含め、市全体の公共施設マネジメントの中で今後検討する必要がある。

#### 3 新庁舎の規模について

- ・新庁舎の規模については、「10000㎡」程度（延床面積）とする。
- ・新庁舎に必要な駐車場台数は、「158台」程度とする。

#### 4 新庁舎の建設位置について

- ・新庁舎の建設候補地は、「米原駅東口市有地」が適地である。

※答申の詳細は、市公式ウェブサイトでご覧いただけます。

昨年12月18日に米原庁舎で検討委員会の岩崎委員長と高柳副委員長から「米原市庁舎等整備基本構想の策定について」の答申書が平尾市長に手渡されました。

これまでの3回にわたり議論され、第10回に最終的な答申がまとまりました。

この答申を受けて市長は、「今回の答申を重く受け止めるとともに、合併10年を迎える節目として庁舎等整備基本構想を定めていきたい」と答えました。

岩崎委員長は、「計10回にわたる議論を振り返って、東日本大震災の教訓と、現庁舎の老朽化や耐震性能の観点から、1つの防災拠点としての庁舎の重要性について、各委員の防災面での危機管理意識が高く、庁舎を1つに統合する議論は比較的にスムーズでした。また、新庁舎の建設位置では、3回におよぶ議論の結果、将来的な発展の方向性から米原駅東口市有地が適



▲市長に審議の経過を報告する岩崎委員長

地であるとしました。

今後は、市でこの答申を踏まえ、具体的な庁舎の将来像を市民のみなさんに提起して、市民のみなさんが活用でき、市外からいろいろな方が来れるような市役所を目指していただきたい」と、語っておられました。